

環境 NEWS (第43回)



全日本サーフキャスティング連盟本部 環境部

今年10月2日に、水産庁から水産資源に関する評価結果の発表がありました。

国立研究開発法人水産研究・教育機構にて192魚種の資源評価を実施したものです。これは、水産資源の適切な保存及び管理に資するため、国立研究開発法人水産研究・教育機構及び関係都道府県の試験研究機関等からなる共同実施機関への事業委託により、我が国周辺水域の主要な水産資源について資源調査・評価が行われ、結果が公表されたものです。

その中に、瀬戸内海のマダイに関するデータがありましたのでご紹介致します。他地域の方、ごめんなさい。瀬戸内海東部の方には明るい内容・・・かな？ 環境が改善されたと理解したいですね。

2026年10月2日

マダイ（瀬戸内海東部系群）②

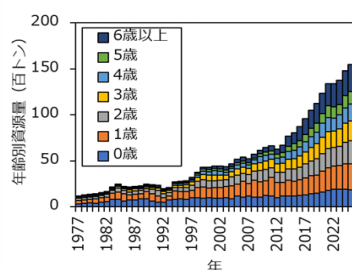


図4 年齢別資源量の推移

資源量は1977年以降、増加傾向で推移し、2025年は154百トンとなった。

2025年の年齢別資源量の割合は、0歳：12%、1歳：18%、2歳：16%、3歳：14%、4歳：12%、5歳：9%、6歳以上：19%であった。

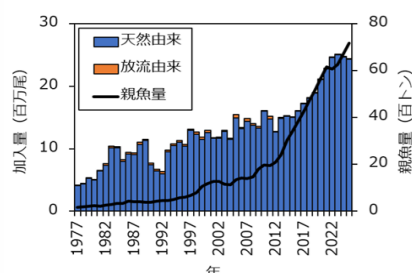


図5 加入量と親魚量の推移

天然由来の加入量（0歳魚の資源尾数）は、1977年以降、増減を繰り返しながらも増加傾向にあり、2023年には過去最高の2,499万尾となった。その後、2年連続でやや減少したが、依然として高い水準にあり、2025年は2,425万尾であった。

親魚量も1977年以降、増加傾向で推移しており、2025年は72百トンであった。

2026年10月2日

マダイ（瀬戸内海中・西部系群）②

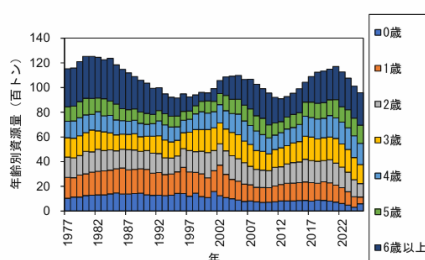


図4 年齢別資源量の推移

資源量は1980年に最高値の125百トンとなり、その後、1995年まで徐々に減少した。1996～2000年は横ばいで推移し、2001～2005年は増加した。2006年から再び減少傾向となった後、2013年から2021年まで再び増加傾向で推移したが、その後は減少しており、2025年は98百トンであった。

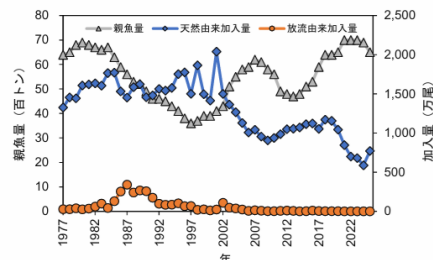


図5 親魚量と加入量の推移

親魚量は1980年の69百トンより減少し、1997年には36百トンとなった。その後2007年まで増加傾向であったが、2008年から減少に転じた。2014年から2021年まで再び増加傾向で推移したが、2025年はやや減少して65百トンであった。

天然由来の加入量（0歳魚の資源尾数）は、2001年に最高値の2,040万尾となったが、その後は減少傾向を示し、2024年は588万尾であった。2025年は2020～2024年の平均値である772万尾と仮定している。

水産庁